

思い込めた「今年の1字」

殺伐とした事件も相次いだ05年が終わり、新たな年が幕を開けました。景気の拡大など少し明るさが感じられる今年、皆さんはどんな夢や目標、願いを描いているでしょうか。きょうの紙面に躍っている文字は、各界・各分野で活躍する県ゆかりの人たちがしたためた「今年の1字」です。そこには、読んでいて元気になるような、それぞれの思いが込められています。「二年の計は元日にあり」――06年の出発点であるこの日、読者の皆さんから寄せられた「1字」とともにご紹介いたします。

(記事はインタビューを基に構成)

逃げずに、前へ

挑戦すなわちチャレンジ 地方分権時代は、地方同士が競い合う時代です。これからの

地方に税源が委ねられ、まちづくり、地域づくりを自分たちの手でやっていくことになり、責任が大きくなります。

みんなと同じことをや

岡山県知事

石井正弘さん(60)



るだけでは勝ち抜けません。岡山県は交通条件はいいし、災害の少ない温暖な気候に恵まれ、素晴らしい伝統文化がある。産業基盤も整っている。しかし、必ずしも今まで生かされていなかった。今こそこれらを生かし、挑戦していかなくてはならない。

企業誘致や道州制の「中四国州」など、私自身がトップセールスで挑戦し続けていけば、これからも岡山県は大いに発展していくんじゃないかと思っています。職員にも常に「チャレンジ精神を持って」と言っています。岡山県の県民性は、ややもすると保守的だと指摘されます。これからの人口減少時代、逃げずに、前へぶつかっていくことが大切だと思います。

国際医療援助団体

「AMD A」代表

菅波茂さん(59)



「公」とは公共性と公益性です。公共性とは「公ければ困るもの」、公益性とは「あれば助かるもの」。

目指すは「オンリーワンの公共性」

の」と定義できます。これまでAMD Aの活動は公益性を担ってきました。つまり、他の援助団体が活動していれば、AMD Aがいなくても困らないということです。06年からはオンリーワンの公共性を担えるよう、人材養成分野で新しい活動を始めたいと思います。

水や電気などの公共性は政府が担っており、発

われつつあります。AMD Aは多額の募金をいただいていたお礼に、社会へ公共性をお返しします。

